

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2670900618
法人名	社会福祉法人 京都老人福祉会
事業所名	グループホーム醍醐の家ほっこり
所在地	京都市伏見区醍醐南里町30-1 (電話) 075-575-3888

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年9月20日	評価確定日	平成19年12月6日

## 【情報提供票より】( 19年 8月 18日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 6 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 15 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 14.4 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	2 階 ~	2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (500,000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

## (4) 利用者の概要( 8月18日現在)

利用者人数	17 名	男性	0 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 88.2 歳	最低	82 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	米田医院 かわうちデンタルクリニック
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

澄んだ空気と自然に恵まれた環境の、醍醐寺にほど近い古い町並みが残る静かな通りに立地しているグループホームです。法人は50余年にわたり、京都の老人福祉を支えてきた実績があり、その豊かな経験と研究を重ねられ、ホームの運営に活かされています。ホーム内は、四季を感じられる中庭から自然光が心地よく入り、腰を掛けて話しができる小上がりなどもあり、家庭的なゆったり落ち着いた雰囲気の間となっています。入居者は散歩や買い物、家事などを職員と共に生き活きと生活されています。職員のさりげないケアの中にも管理者の指導や研修等の知識と職員自身の心配りが感じ取れます。また、ホームとして地域行事に参加するだけでなく、認知症の勉強会の開催や合同の避難訓練など、家族、地域と連携を図りながら、地域福祉の拠点としての役割も果たされているホームです。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義を理解し、積極的に取り組みを行っています。前回の外部評価での改善項目については改善計画シートを活用し、職員間で話し合いながらほぼ改善されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価票については管理者、リーダーが中心になって自己評価しています。日々のケアを振り返る機会になり、ケアに自信を持つことにもつながるので、自己評価は職員全員で取り組まれることが望まれます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、家族、地域の老人会の方、町内会の方、地域包括職員が参加する運営推進会議では、様々な情報交換をはじめ、ホームの避難訓練に町内の方が参加したり、家族会と合同で研修会を実施するなど積極的な取り組みを行っています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族がホームに来られた際や電話、家族会、運営推進会議にて意見や要望を表す機会を設けています。また、外部も含め、苦情対応窓口について、書類に記載し案内しています。近隣者や、家族からの意見や苦情は記録され、誠意を持って対応されています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に加入し、地域行事(地蔵盆や区民運動会など)に地域の方々と共に参加し、交流を深めるよう努めています。ホームにおいても夏祭りを開催し、老人会の呼びかけもあり、地域の方が大勢参加されています。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“住み慣れた家、暮らし続けている地域で安心した生活を送れるように支援を展開する”を開設当初より理念として掲げ、“ゆったり よりそい ひだまりのような醍醐の家”をモットーに日々取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は日々のケアの中で理念に向けたケアに取り組んでいる。研修や会議などでも振り返りや学びの場として活用している。また、地域へは買い物やご近所とのあいさつ、町内活動への場所貸しなどを通して理念を実践している。	○	理念を共有し、実践するためにホーム内の見えやすい場所に雰囲気合う方法で掲げられることを希望します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、地域行事(地蔵盆や区民運動会など)に地域の方々と共に参加し、交流を深めるよう努めている。ホームにおいても夏祭りを開催し、老人会の呼びかけもあり、地域の方が大勢参加されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、積極的に取り組みを行っている。前回の外部評価での改善項目については改善計画シートを活用し、職員間で話し合いながらほぼ改善されている。今回の自己評価票については管理者、リーダーが中心になって自己評価している。	○	日々のケアを振り返る機会になり、ケアに自信を持つことにもつながるので、自己評価は職員全員で取り組まれることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、地域の老人会の方、町内会の方、地域包括職員が参加する運営推進会議では、様々な情報交換をはじめ、ホームの避難訓練に町内の方が参加したり、家族会と合同で研修会を実施するなど積極的な取り組みを行っている。		

グループホーム醍醐の家ほっこり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	京都市老人福祉協議会地域密着型研究会で市と連携している。また、独自に“認知症を知る会”を立ち上げ区役所福祉部と連携しながら活動を継続している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の利用者の暮らしぶりや健康状態などはホームに来られた際や電話やFAX、毎月の手紙にて報告している。また、ビデオ上映や個人アルバム、グループホーム広報(年4回)でも生活の様子を伝えている。職員の写真を入口に掲示し、異動については広報誌で知らせている。金銭管理は、規定通りに管理され年に2回家族に報告されている。	○	預かり金の報告については、使途が家族に理解しやすいように定期的に報告する事の検討が期待される。また、領収書については、原本は家族にお返しし、コピーを保管される事が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームに来られた際や電話、家族会、運営推進会議にて意見や要望を表す機会を設けている。また、外部も含め、苦情対応窓口について、書類に記載し案内している。近隣者や、家族からの意見や苦情は記録され、誠意を持って対応されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者とのなじみの関係が長く継続できるよう、異動は最小限にとどめ、職場環境(くつろげるスペースや、ロッカールームの設置)など、精神的フォローにも配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画が立てられている内部研修や外部研修に非常勤職員を含めて段階に分けて参加している。研修の中には交換研修や職員が交代で講師になっての研修も実施している。また、研修参加後は会議にて報告会を実施し、共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区役所が主催の地域連絡会議やグループホーム協議会の研修会に参加したり、他の事業所のグループホームとの交換研修を実施するなど、常に質の向上に向け積極的に取組まれ、幅広いネットワークが出来ている。		

グループホーム醍醐の家ほっこり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所申し込み者に対し、入居待ちの時からその方に合わせた環境づくりに努めており、デイサービスからの利用や事前に必ず見学やお試し利用などもしていただき、ホームになじめるかなどを確認し、徐々になじみの関係作りができるよう配慮されている。また、入居時までは、居室のレイアウトや家具の検討など職員と家族共に話し合わせ、個々のなじみの居室作りをされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が入居者と共に生活する中で、個々の生き方や得意なことや希望されていることを見つけ出し、泥棒封じのまじないや、祇園祭の風習など職員も学ぶことが多々あり、日々支え合いながら、一緒に過ごしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、日々の会話や生活の中から引き出した思いや家族からの希望などを把握し、カンファレンスの場で職員全員が共有し、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、日々の生活の中で本人の思いや希望を聞き取り、カンファレンスを行い、職員、家族と話し合いながらプランに反映している。カンファレンスには家族、主治医、歯科衛生士も参加する場合もある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的に半年に1度定期的に見直しされているが、毎月モニタリングを実施しており、期間前の状態の変更や緊急を要する場合は随時見直し、家族同意の下、プランを変更している。		

グループホーム醍醐の家ほっこり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	祇園祭りや美容院、ドライブ、外食、人形展などの個別外出や通院介助など、常にその時々々の要望に応じて柔軟な対応がされている。	○	外出については、ほとんど個別対応しているが、家族会からの要望で小グループで外出したいとの意見が上がり、現在検討されている。今後も様々な要望に柔軟に対応されることが期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医以外に、利用前の主治医など受診の希望を把握して共に連携が図れるようバックアップ体制が整備されている。また、ホームと併設デイサービスの看護師が連携し、急変時の対応も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム独自のターミナルの意向書(確認書)があり、重度化されたときの対応方法など医療機関を含めて繰り返し話し合いを持ち、家族を含めた全員で方針の共有化が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者に対する言葉掛けやプライバシーの保護について常に意識し、職員同士でも気がついたことは注意し合いながら対応されている。個人情報事務所の棚で管理されており、出し放しにしないようにしている。また、パソコンの管理についても徹底管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のスケジュールは、日々のリズムを作る程度に決めており、その時の気持ちの表出によりペースを知り、個々に合った支援をしている。		

グループホーム醍醐の家ほっこり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は前日に利用者と相談して決め、足りない物の買い物や調理、盛り付け、配膳、後片付けなど利用者と共に協力している。食事づくりは生活リハビリと考えられており、味付けの好みや季節の話題などの会話もあり、職員と共に楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、個々のペースや希望にあわせて行っている。毎日入浴希望される方にも都度対応されている。希望があれば夕食後の入浴が対応できる体制がある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸や食事づくり、洗濯たたみ掃除などの役割分担や散歩、手芸サークル、カラオケなどの楽しみ事や気分転換など、個々の生活歴や力量に応じた支援をされ、利用者は生き活きと生活されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「近場でも良い一日一回外へ出よう」をキャッチフレーズに、日々の生活の中で、近くのスーパーへの買い物やパン屋への籠返却、新聞取りなど利用者全員が個々に外に出られるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、施錠することの弊害を理解し、家族の理解のもと、日中は鍵を掛けないケアを継続している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域町内会と共に管轄消防と避難訓練を実施し、災害時に地域の方々の協力が得られるよう取り組みをされている。	○	地域に協力を依頼するだけでなく、地震等の災害時には、施設が避難場所となることや備蓄食料など施設として出来る援助もアピールし、共助の精神でさらなる協力体制を構築されることが期待される。

グループホーム醍醐の家ほっこり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量や水分量(必要な方のみ)について、個々に記録され、栄養バランスや嗜好、食べやすい形態にも配慮されている。ペースト食は、適切な栄養確保の必要から、同法人の他施設と連携し、クックチル配送にて提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、中庭から入る自然な日差しがほどよく、室内はやさしい中間色が使用されている。また、スペースの有効活用や家庭的な家具が配置され、観葉植物を置いたり、畳のコーナーには冬はコタツが置かれる。施設を感じさせない、あたたかな雰囲気居心地良く、利用者だけではなく訪問者をも和ませる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のスペースも広く、使い慣れた家具やテレビなどが置かれており、のれんや自分で作った作品やお気に入りの写真を飾るなど、居心地良い部屋づくりを本人や家族と共に工夫されている。		